2026 年度事業計画及び予算

【キーパーソン 21 の活動目的】



キーパーソン 21 は、一人ひとりの中にある、誰もが必ず持っている動き出さずにいられない原動力「わくわくエンジン®」を大切にする。主に子どもや若者に対して、自分を活かしていきいきと生きることができるよう、対話しながら原動力を引き出し、一歩踏み出し自分発で行動することを応援する。世代や地域、立場を越えて、あらゆる人たちがごちゃまぜになり、わくわくしながら学び育ち合う社会を共創造することを目指す。（定款 目的 第 3 条より）

【2026 年度活動方針】

1． 一歩踏み出す土台としての「わくわくエンジン®」を社会のスタンダードに

人が自分の原動力に気づき、応援し合う関係の中で、一歩踏み出す土台として、家庭・地域・学校・企業へ、私たちが大切にする考え方を組み込んでもらうことを目指します。

2． 誰もが活動に参加しやすくすることで、「信じて見守る」文化を社会へ広げる

プログラム※を広く公開（コモンズ化）し、あらゆる大人が子どもを評価・誘導せずに伴走できる文化を広めます。子どもの日常を支える保護者への働きかけを強めると同時に、多様な背景を持つ第三の大人ならではの価値を活かします。

3． 「共創型」の会員主体組織へのシフト

自ら価値を生み出し、外部とつながるプレイヤーとして自走する方も、静かに見守り、文化を体現しながら共鳴する方も、多様な参画によって共創していく組織を目指します。事務局は会員の主体的な活動を支える基盤となります。

※ここでいうプログラムとは、単に「すきなものビンゴ®」や「お仕事マップ」「やってみたい！の応援」などの固定的な実施の方法ではなく、アレンジした自由なアプローチ、講演や研修などさまざまな形式や、キーパーソン 21 の 25 年のノウハウ、ナレッジ、叡智、大切にしたい考え方などが含まれる幅広く柔軟性のある概念を表しています。

【2026 年度の重点施策】

1. 地域と企業の力をつなぎ、活動の場を広げる

- **地域における「みんなで子どもを育てるモデル」の構築**
  川崎をはじめとする全国の地域で、「わくわくエンジン®」から始まる「やってみたい」を応援するプログラムを展開し、地域企業や住民を巻き込んだ「みんなで子どもを育てるモデル」を確立します。地域全体で子どもたちを支える土壌をつくり、活動の認知度を高め広げます。
- **探究の広がりを活かした、企業や外部団体との連携強化**
  社会での探究の普及に合わせ、私たちのプログラムと相乗効果を生み出す学校・企業・団体などとの協働を推進します。企業の採用・育成などの課題への解決策を提供しながら、関係する人や組織がみな Win-Win になる新しいあり方を共に創出します。

2. プログラム※のコモンズ化と、より深い関わりへの導線設計

- **「気軽にスタート」から「もっと深く」へ自然とつながるステップ設計**
  非会員や教員が自らプログラムを体験・実施できるよう、ガイドラインやツールの公開を整備します。併せて、「わくわくナビゲーター養成講座」や個人で活動しやすいパートナー制度など、有料の伴走・実践機会など、より深い関わりへの導線を設計します。
- **「主役は子ども、きっかけは大人」子どもを信じて見守る大人を増やすための広報**
  子どもたちの「わくわくエンジン®」を認めて、じっくりと伴走するための大人側のマインドセットを共有する機会を増やします。ビジョンマップを具体化する事業戦略と連動する広報戦略によって、活動への共感を広げます。

3. 会員主体の活動を支えるインフラ整備

- **会員が主役となる活動基盤**
  会員の主体的な活動をサポートする仕組みを構築します。チームに所属する方も、所属しない方も、すべての会員が活動しやすくなるように、Discord 上のコミュニティーやプロマネ支援、各種コンテンツなどのインフラを整備します。
- **活動成果が可視化される基盤**
  多様なプロジェクトやチームの活動成果と収支を明確にし、透明性が高く、効率的な財務・管理体制の構築を進めます。



保護者の「知る・動く」を加速させる新戦略

新しいアプローチ①
体験から広がりと循環をつくる

自分のいる場所での実践を促す



既存の枠にとらわれず、誰もが自分の場で
活動を始められる方法を提示します。

フリーミアムモデルの導入



基本的な考え方やツールを広く提供し、
誰もが気軽に第一歩を踏み出せるようにします。



私たちの目標は、もっと多くの保護者に、
私たちの想いを知ってもらい、一緒に行動してもらうことです。
そのために、参加しやすく広まりやすくなるような
「2つの新しいアプローチ」を導入します。

新しいアプローチ②
体験と情報発信をつなぐ

事業戦略と一体化した広報



広報体制を強化し、私たちの活動価値を
一貫したメッセージで伝えます。

次のアクションへの明確な道筋



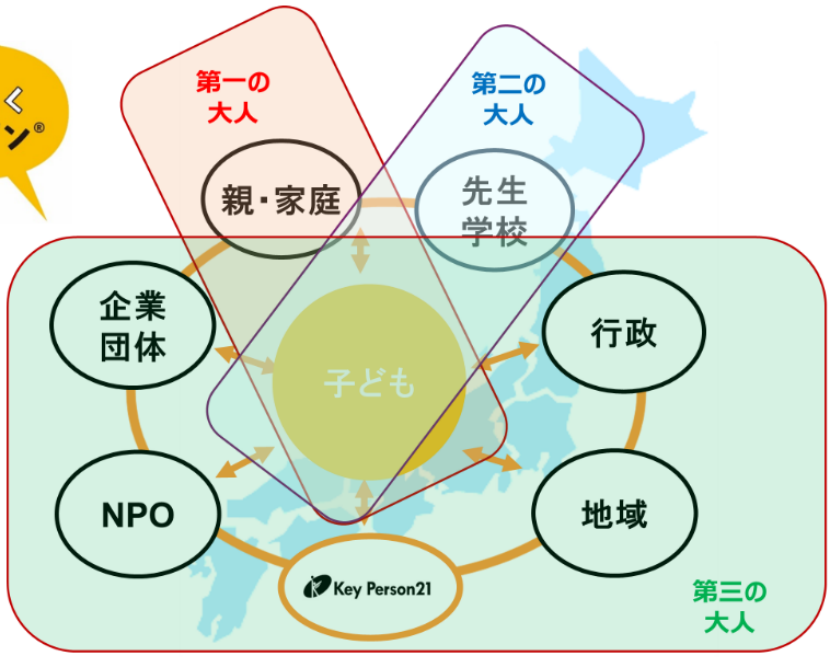
情報に触れた人が次は何をすれば良いか、
具体的な選択肢を提示します。

NotebookLM

全ての人が自分を活かしていきいきと生きるwill-being®な社会へ

I have
わくわく
エンジン®

子どもを
ど真ん中に
プログラムで
人々・地域がつながる



あらゆる立場の大人たちが
ごちゃまぜになって
子どもたちを応援しあい
可能性を共創造していく

【事業展開図】


わくわくエンジン
事業展開図　2026年度版
Key Person21
地域
チーム北海道
チーム奈良
チームにいがた
チーム北大阪
チーム北関東
チーム大阪兵庫
チーム東京
チーム宮崎
チーム湘南
チーム沖縄
チーム静岡
パートナー
くさつ未来プロジェクト
ちばこどもおうえんだん
未来のわくわく研究所
地域/パートナーへ
事業展開
事業
5つの事業（定款）
① キャリアプログラム実施展開事業
② キャリアプログラム開発及び品質管理事業
③ 子ども・若者の居場所づくり事業
④ 教育に関する広報・調査研究・普及啓発事業
⑤ その他目的達成のために必要な事業
組織
総会
監事
理事会
顧問
代表理事
スペシャルサポーター
事務局
認定委員会
×
（1）会員活動推進
（2）組織基盤
1. 総務
2. 人事・労務
3. 財務・経理

2026 年事業計画 目次

【キーパーソン 21 の活動目的】
【2026 年活動方針】
【2026 年の重点施策】

（１）特定非営利活動に係る事業
【事業部門】
1．キャリアプログラム実施展開事業
1-1. 事務局実施
1-2. 地域チーム実施
1-3. パートナー実施（支援実施/実施の状況把握）
2．キャリアプログラム開発及び品質管理事業
2-1. プログラム開発
2-2. 認定委員会
2-3. プログラムのわくわくナビゲーター養成講座
2-4. プログラムのわくわくナビゲーターを養成する講師の育成
2-5. 各種サポート
地域チームサポート
パートナーサポート
普及サポート
個人パートナーサポート
3．子ども・若者の居場所づくり事業
3-1. 学習支援・居場所づくり事業（中原わくわく学習会「なかわく」通称）（川崎市）
3-2. 学習支援・居場所づくり事業（小杉わくわく学習会「こすわく」通称）（川崎市）
4．教育に関する広報・調査研究・普及啓発事業
4-1. 講演/セミナー/研修
4-2. 企業や地域のネットワークづくり
4-3. 広報
5．その他目的達成に必要な事業
【管理部門】
１．会員活動推進
２．組織基盤
2-1．総務
2-2．人事・労務
2-3．財務・経理
３．戦略

（２）その他の事業
1．寄贈品、グッズなどの物品販売
2．著作、出版物の制作・販売
3．会員のサークル活動支援事業

2026 年度予算書
【財務諸表】
活動予算書

（１）　特定非営利活動に係る事業

【事業部門】

１．キャリアプログラム実施展開事業

収益 7,455　　費用 8,235（事業費 6,125　管理費 2,110）（単位：千円）

■26 年度のテーマ
1. 家庭・地域・学校など、子どもたちのいる場所でプログラムと出会える機会を創る
（一歩踏み出す土台としての「わくわくエンジン®」を社会のスタンダードに）
2. 子どもたちの日常を支える保護者、先生へのプログラム情報発信・共有
（誰もが活動に参加しやすくすることで、「信じて見守る」文化を社会へ広げる）
3. 「わくわくエンジン®」からはじまる「やってみたい！」を応援するプログラムを確立
（地域における「みんなで子どもを育てるモデル」の構築）

■26 年度の目標
１．プロジェクト事例づくり～会員や社会へレポートする
２．保護者、先生に向けた情報展開の拡充
３．「やってみたい！を応援」事業の事例展開と普及モデルづくり

１-1.事務局実施

1-1-1.プロジェクト事例づくり

■活動項目
◆プロジェクト事例を会員メールや Facebook、Discord 等で会員に報告するとともに、社会にも認知してもらうよう HP やメルマガでも紹介する。
◆川崎市での取り組み
川崎市教育委員会との連携のもと、地域企業、地域の大人たちと協働してキャリア教育プログラムを展開
・川崎市立久本小学校×地域企業
・教育委員会後援事業「殻をやぶれ！わくわくたまごプロジェクト」かながわサイエンスパーク開催
・かわさき市民活動センター管轄子ども文化センター（スタッフ研修を兼ねたプログラム実施）
・学習支援・居場所づくり事業（川崎市委託事業：中原わくわく学習会・通称「なかわく」）において
中 3 生対象に 4 日間にわたり個別対応でプログラム実施
◆地域サポーターが活躍する事例
・東京都江東区立有明小学校／有明西学園（保護者や地域サポーターが参加・地域学校協働本部と連携・10 年目）
・横浜市立笹下中学校（4 年目）

・寒川町立寒川東中学校（6 年目）

◆企業との連携事例

・カシオ計算機株式会社：CSR 活動として本社近くの渋谷区立渋谷本町学園および羽村技術センター近くの公立小学校で展開（11 年目）

・JFE エンジニアリング株式会社：JFE 横浜金沢マリンエネルギーセンター近くの横浜市立小田中学校にて実施（4 年目、小田中：2 年目）

・JA 全農：「酪農の夢コンクール」参加校の埼玉県立熊谷農業高等学校にてプログラム実施（5 年目）

1-1-2. 保護者に向けた情報展開の拡充

■活動項目

＜保護者向け＞

◆プログラム実施校の保護者に向けて、「わくわくエンジン®」のワークシートの読み解き方を伝える。

・保護者向け・PTA 向け講演を各実施校に提案する。

・保護者の理解を促進するために、ワークシートの読み解き方の説明資料や動画を制作、情報展開する。
例）学校実施で家庭向けに配布するプログラムレターに QR コード掲載

◆保護者に向けて、様々な悩みを解決するために「わくわくエンジン®」の考え方を伝える。

・保護者向け、PTA 向け講演を増やす。

・全国の PTA、協議会などの情報網を活用して発信する。
（地域チームや会員がいる地域を優先して配信する）（※参考：全国 PTA の数：小学校約 2 万校、中学校約 1 万校、高等学校約 2 千校）

・保護者に響くコメントや動画を Instagram で発信する。

◆親子参加型プログラムの実施（対面開催/オンライン開催）

＜先生向け＞

◆プログラム実施の前には、研修やオリエンテーションを行なうことを徹底する。

◆新潟市教育委員会主催の教員研修の事例を全国展開できるよう充実させる。

1-1-3.「やってみたい！を応援」プロジェクトの事例展開と普及のための仕組みづくり

■活動項目

◆全国で「やってみたい！を応援」をやりたい！プロジェクトマネージャーが実現できるように、普及のための仕組みをつくる。

・やりたい！プロジェクトマネージャーのための実施ガイドライン作成

・全国のプロジェクトマネージャーに伴走する体制づくり（相談から伴走まで）

・地域企業から共感と寄付や協賛を得られる営業資料の充実

◆川崎を中心とした事例づくり

・主催型：かながわサイエンスパーク（地域企業の協賛拡大とサポーター拡充）

・プログラム提供型：かわさき市民活動センター管轄「子ども文化センター」（スタッフ研修として展開）

・川崎市立幸高校ビジネス教養科（「起業」をテーマに活動する生徒）

・麻生市民館　家庭地域教育学級（大人向け）

・岡山県奈義町：町営子育て支援施設「ｂ＆ｇなぎ」（不登校の子どもたちにむけてオンラインで検討）
・学びの多様化学校：町田市立山崎中学校分教室「ゆめのき」（先生、保護者と連携した展開）

1-2. 地域チーム

地域チーム	2026 年度計画
チーム北海道	・オモロー授業発表会との連携により、地域の教員や教育活動をしている方々と繋がり、プログラム体験を提供しつつ、地域で協働して子どもたちを育てることの考えを深める意見交換をし、未来の教育について考えるイベントを開催する。 ・地域の会館やカフェ、お寺などで親子や 20,30 代の女性向けにプログラムを実施。
チームにいがた	・新潟市教員研修として、好評だった選択研修「わくわくエンジン®発見研修」の継続、また悉皆（しっかい）研修として 3 年目研修、6 年目研修を、事務局と教育センターとの協働プロジェクトで行なう予定。新潟市内教員が、教師としての自分軸を発見し、自分自身のリフレクションと位置付ける。 ・地域での信頼を重ねながら、これまでの実施校との関係継続
チーム北関東	・さいたま市立植竹中学校で継続実施。大規模校のため、地域サポーターを募る予定 ・メンバーが講師を務める講演会を行ない、プログラム実施のきっかけにしたい。 ・実施の際にローカルメディアに売り込み認知度を高める。 ・ANBEC（日伯経済文化協会）寺子屋@常総市の実施機会をつくりたい。
チーム東京	・チームメンバーのつながりから川崎市立小学校での実施を検討・調整中 ・参加者募集型親子実施の継続 ・昨年度の実施校の継続に向けて検討中
チーム湘南	・活動休止中
チーム静岡	・菊川市市民協働センターとの協働でプログラムを実施（７年目） ・森町社会福祉協議会との協働でプログラムを実施（6 年目） ・メンバーを増やすため、チーム静岡主催の説明会、大人向けのプログラム実施、静岡での養成講座の開催などあらゆる手段を駆使して、チームを増強する。
チーム奈良	・活動休止中
チーム北大阪	・メンバーが主宰する居場所や塾での実施 ・親の意識向上のため、PTA 講演を開催したい。 ・大人がまずわくわくするために、自己理解として大人向けプログラム実施をしたい。
チーム大阪兵庫	・株式会社高栄ホームの寄付や協賛により、大津市立富士見小学校において実施（５年目） ・神戸市立長田中学校での「やってみたい！をやってみる」までのプロジェクトを実施 ・これまで実施した学校での実施を検討 ・大津市立全校長 80 名に向けて研修
チーム宮崎	・毎年養成講座でメンバーを増やす方針から、学校等での実施を増やして活動の場づくりを確保する方向へ。 ・県が行なうプログラムに参加し、教育委員会とのつながりをつくる。 ・つながりのある居場所や学校実施を計画
チーム沖縄	・活動休止中

1-3. パートナー

■活動項目

◆認定 NPO 法人くさつ未来プロジェクト：

・ロケット教室と連携することで、自分を知るプログラムを体験活動に活用している。

・社会福祉協議会での実施を継続

◆NPO 法人ちばこどもおうえんだん：

・地域の定時制高校に対し、中途退学者を減らす目的で活用している。

◆一般社団法人未来のわくわく研究所：

・これまで、地域の大人、高校生、教員など多様な立場の人にサポーターになってもらったが、今年度は原点である、地域の大人のサポーターに関わってもらうため、サポーター研修 1 回開催予定

・市教育委員会管轄の居場所にて、実施を継続

・宇和島市の近隣鬼北町でも同様の取り組みを実施

2．キャリアプログラム開発及び品質管理事業

収益 2,065　　費用 2,281（事業 1,697　管理 584）　（単位：千円）

■26 年度のテーマ

プログラムのコモンズ化とフリーミアムモデルの設計

■26 年度の目標

・教員が一人でも自分のクラスでできる教材パッケージの開発と普及

・わくナビ（個人）パートナーによる普及

・講師養成（3 名）

・多様な個人や組織によるプログラム活用の拡大と定着をサポートする体制の構築

2-1. プログラム開発

■活動項目

◆わくナビ（個人）パートナーの仕組みが完成に近づき、間もなくリリースを予定。

◆わくわくナビゲーター養成講座の組み立てをバージョンアップする。

新講座と現講座の大きな違いとなる改善ポイントは次の 5 つ。

＜1＞受講者が自信をもって引き出しができるようになること
　　引き出し力強化講座の内容も含めて盛り込み、「やってみたい！」も引き出せるようになること、わくナビ（個人）パートナーとして自信をもってできるようになることを目指す。

＜2＞「わくわくエンジン®」をどう活用できるかをイメージできるようにする

＜3＞受講者同士が仲間感をもてるようになること

＜4＞録画、オンライン、リアル対面を組み合わせて構成する

＜5＞わくわくナビゲーターとして学んだ「子どもとの関わり方」や「問いかけ」が、日常生活において活用できるようになること

◆わくわくナビゲーターを養成する講師を更に 3 名養成する。
◆教員向けの「教材パッケージ」を完成させ、実行フェーズに移す。
教員研修や教員のためのイベントでプログラムを体験した教員が、自らのクラスで行えるよう、教材パッケージを準備する。
◆「わくわくエンジン®」から始まる「やってみたい！をやってみる」の延長線上で、新規開発として次のプロジェクトにトライする。
「わくわくエンジン®」から生まれる「やってみたい！」を応援することで、アントレプレナーシップの種を蒔き、育み、自分や社会を変える力にしていくイノベーティブな人材育成プログラムの開発に着手する。
・川崎市立幸高校ビジネス教養科（対象：「起業」をテーマに活動する生徒）
・川崎市生涯学習財団、麻生市民館（対象：「起業」を見据えた大人）

2-2. 認定委員会

■活動項目
◆認定委員会は 1～2 回開催する。
◆1 級希望者と講師希望者の認定を予定
プログラムの深い理解者としての 1 級わくわくナビゲーターの認定を促進する。
講師は、単にプログラムのやり方を伝える人ではなく、受講者の新しいアイデアや、やってみたいこと、得意なことなどを把握しながら、受講者を活動へつなぐ役割を果たす。

2-3. プログラムのわくわくナビゲーター養成講座

■活動項目
◆わくわくナビゲーター養成講座の開催：首都圏<対面>
・トレーニング 1「体験」2 回：7 月 4 日、10 月 17 日
・トレーニング 2「引き出し」2 回：7 月 4 日、10 月 17 日
・トレーニング 3「メイン」2 回：7 月 5 日、10 月 18 日
◆わくわくナビゲーター養成講座の開催：全国<対面>
地域での要望に合わせ都度設定していく予定
◆オンラインわくナビ育成コースの開催
オンラインわくナビ（個人）パートナーの制度化に合わせ、都度設定していく予定

2-4. プログラムのわくわくナビゲーターを養成する講師の育成

■活動項目
◆講師養成
一人でも多くの人の人生をわくわくさせられるよう、新たに 3 名の講師を養成予定（2025 年度に開始した 6 名の講師養成計画のうち、既に 3 名の講師が誕生。約 15 日間のコースを通して、プログラムの考え方や普及を促進する。）

2-5. 各種サポート

■活動項目

＜地域チームサポート＞

◆地域チームの仕組みができた頃とは活動も変化してきているため、よりチーム活動がのびやかにできるよう、インフラの再整備を行なう。

・チームスターターセットの内容見直しと共有
・チーム会計の見直しと共有
・各種資料を Discord を通じて共有

＜パートナーサポート＞

◆パートナーそれぞれの既存の業務に配慮しながら、負荷がかからない実施を提案しサポートする。

・随時オンラインでミーティングを設定
・足りないわくわくナビゲーターをキーパーソン 21 より募集

＜普及サポート＞

◆キーパーソン 21 のプログラムの活用を希望する人や地域が実施しやすい形を提案しサポートする。

・丁寧なヒアリングにより、活用を希望する理由や課題を抽出
・地域主体で実施できるように提案
・講演や研修で理解者を増やすために、講師が地域のネットワーキングもサポート

＜わくナビ（個人）パートナーサポート＞

◆個人会員がプログラムを実施するための準備と試行を開始する。

・既存わくわくナビゲーターがわくナビ（個人）パートナーになるための移行講座の開発・開催
・わくナビ（個人）パートナー、オンラインわくナビ（個人）パートナーの登録受付、試行開始
・2027 年度の本格展開に向けて、試行結果を検証し、制度・仕組みを確立

3．子ども・若者の居場所づくり事業

収益 19,651　費用 21,708（事業 16,146　管理 5,562）（単位：千円）

■26 年度のテーマ

学校外の学びの場において、「わくわくエンジン®」をベースに子どもが自分軸をもって進路選択する力をつける。

■26 年度の目標

学習に限らず、就労支援の一環として地域の循環を促進する。

3-1. 学習支援・居場所づくり事業（中原わくわく学習会・通称「なかわく」）（川崎市委託事業）

■活動項目

◆「学習支援・居場所づくり事業」として川崎市より「中原わくわく学習会」を受託・継続する。

・一人ひとりに寄り添った丁寧な学習サポートを継続する。

・リアル対面とオンライン学習の二本立てで行なうことを継続する。
・学習内容は、学校教育における学習にとどまらず、学校ではできない、「わくわくエンジン®」の発見、お金の教育、個々の要望に合わせた経験など多岐にわたる。
・新城教室 91 回、小杉教室 91 回、二か所において合計年間 182 回開室

◆学習会の卒業生が「学習サポーター」になり、就労支援としての機能も一部において果たすチャレンジを行なうことで、地域において教育の機能と居場所の機能に就労支援機能を加える。子どもの成長に合わせて川崎市中原区地域において循環するモデルづくりを継続する。
◆希望者（中学生）に対し、おやつ以外に補食を提供する。

3-2. 学習支援・居場所づくり事業（小杉わくわく学習会・通称「こすわく」）（自主事業@川崎市）

■活動項目
◆「小杉わくわく学習会」を維持継続する。
・助成金と寄付で運営する。
・通常開室 46 回/年、不登校対策としての開室 92 回/年
・経済的困難があったり、家庭環境に問題があったり、学校に足が向かない子どもの学習と居場所としての機能を維持継続する。
・進学に備える子や、高校卒業を目指す子など、一人ひとりに寄り添った学習方法や進路サポートを継続する。

４．教育に関する広報・調査研究・普及啓発事業

収益 1,116　費用 1,233（事業 917　管理 316）（単位：千円）

■26 年度のテーマ
事業戦略と一体化した広報と、多様なステークホルダー（保護者、教員、企業、地域）に対するアプローチを通じて、「わくわくエンジン®」の価値を社会に浸透させる 。情報に触れた人が共感し、実践という「次のアクション」へと動き出す、広がりと循環をつくる 。

■26 年度の目標
・教員、保護者、企業に向けた講演や研修を通じ、「信じて見守る」大人の関わり方へアップデートして、プログラムの導入・実践を促す。
・探究に取り組む中で「わくわくエンジン®」の必要性に気づいた諸団体との連携を推進する。
・「みんなで子どもを育てるモデル」を構築するための地域の人や組織とのつながりをつくる。
・「やってみたい！を応援」プロジェクトなどキーパーソン 21 の活動に共感し参画する人や組織を増やす。

4-1. 講演/セミナー/研修

■活動項目

◆新潟市教育委員会主催教員研修
希望選択研修 1 講座、教諭 3 年目悉皆研修、教諭 6 年目悉皆研修
◆教員研修
・キャリア教育や探究学習に悩む教員向けの研修
・キャリア教育や探究学習のベースとなる考え方を普及するため、プログラム実施前の教員向けオリエンテーションの実施を継続する。
◆保護者 PTA 向け講演
◆企業向け研修
CSR 部門のみならず、人材育成に関わる人事部門とのつながりを築き、研修を提案する。

4-2. 企業や地域のネットワークづくり

■活動項目
◆行政や、企業、諸団体とのネットワークを広げ協力者を増やす。
・文部科学省が進める「好きを育み、得意を伸ばす」施策の中に、「わくわくエンジン®」を発見して活かすプロセスを組み込めるように、行政に対して働きかける。
・川崎市教育委員会と連携し、「かわさき探究 2.0」のプロジェクトにトライする。
・探究プログラムを提供する教育事業者との連携の可能性を検討する。
・地域の多様な人や組織とのつながりを活かして、学校と地域をつなぐハブとしての役割を果たす。
◆子どもたちの「やってみたい！」の伴走に既に取り組んでいる、もしくは、これから取り組もうとする全国の居場所との連携を増やす。
・「やってみたい！の応援」プロジェクトの事例を、全国の居場所に伝えていく。
◆企業の「人的資本経営（採用・人材育成）」の課題解決を支援するパートナーとして、社内研修プログラムや、採用と絡めた学生向けキャリア教育を提供する。
・既に関係のある企業や、新たに繋がった企業において、人事系部署とのコミュニケーションにチャレンジする。
◆学校、地域の居場所など地域の多様な場を連携させた「面」での展開により、地域の価値を高める取り組みとして地域企業が参画しやすい、持続可能な「みんなで子どもを育てるモデル」を確立する。

4-3. 広報

■活動項目
◆事業戦略と一体化した広報体制の強化
・広報を単なる情報発信ではなく「経営の一部」と位置づけ、事業戦略と連動して広報を牽引・実行できる専門人材と協働する体制を構築する。
・探究に取り組む諸団体に対し、「わくわくエンジン®」の必要性に気づいてもらうための広報をする。
・広報戦略にもとづいて、プログラム実施における情報発信や実施計画自体を進める。
・ホームページを柔軟かつ素早く（アジャイル的に）改修し続ける基盤をつくる。
・25 周年を機に会員向けアンケートを実施して、コミュニケーションの基礎となる会員の現況を、印象ではなくデータとして把握する。

◆保護者に「知ってもらい、動き出してもらう」機会の拡大
・PTA ネットワーク等を活用し、全国の保護者に向けて講演会やセミナーの情報を広く発信する。
・考え方やエッセンスを伝える動画コンテンツ、記事、ツールを積極的に広く公開（コモンズ化）し、共感の裾野を広げる。
・情報に触れた保護者がすぐに動き出せるよう、講演会や動画視聴のあとに「オンラインビンゴの体験」「コミュニティーへの参加」「入会」「講座の受講」など、具体的な次のステップを提示する。
◆「キーパーソン 21 の日」の開催（毎月 21 日）
・会員の活動の参考になるテーマや、学びとなるようなコンテンツを企画する。
・新入会員とのコミュニケーションとして新入会員の紹介を継続する。
・会員外への情報提供の場としても活用する。
◆寄付・入会・協賛の拡大
・「寄付による参画」もしくは「会費を払うことによる参画」の価値を伝える。
・教育関係者やキャリアコンサルタント資格保有者に向けたコミュニケーションを強化し、入会を促進する。
・地域企業に対して活動に参画する価値を伝えるコミュニケーションツールを整備する。

５．その他目的達成に必要な事業

特になし

【管理部門】

1．会員活動推進

■26 年度のテーマ
　会員主体の活動をベースとし、会員同士の協働を推進
■26 年度の目標
　会員同士が繋がる・応援し合う・広がる

■活動項目
◆第 4 回 全国会員リアル交流会の開催　7/18~ @北海道（4 年目）
・7/19　オモロー授業発表会と「わくわくすると人は動き出す」をテーマにコラボイベントを開催する。
◆親・保護者が関わり方を日常に落とし込めるように応援するグループ活動（2 年目）
◆教員が自分のクラスでプログラム実施できるように教員向け教材パッケージを作るグループ活動（2 年目）
◆国や行政への提案グループ活動 ＜New!＞
◆「おもしろい仕事人がやってくる！」のプログラムを活用し、おもしろい仕事人の発掘や会員同士の交流をはかるグループ活動 ＜New!＞
◆キャリアコンサルタント会員の交流を目的としたグループ活動 ＜New!＞
◆会員全員が参加できる唯一のコミュニケーションツール Discord の活性化をはかるグループ活動 ＜New!＞
チャンネルの整理、活性のしかけづくりなど
◆会員自らが「やってみたいことをやってみる」ことの価値を実感するためのグループ活動 ＜New!＞
会員の子どもの「やってみたい！」を応援するオンラインイベントを開催
やってみたいことの出し合い、実行への作戦会議、実行、発表までを行なう。
「やってみたい！」の応援のハードルを下げ、地域チームや家庭にも広がっていくことを目指し、会員自身の「やってみたい！」も応援し合う。
◆テーマ別交流会の開催（わくナビ交流会・プロマネ交流会・広報交流会・地域チームリーダー交流会・サブリーダー交流会・会計メンバー交流会など）
＜New!＞のグループは、運営メンバーを募集予定なので、追って会員に連絡します。

2．組織基盤

■26 年度のテーマ
　ビジョンマップの目指す社会を実現するために、会員が活動しやすい組織基盤を整える。
　感謝と応援のコミュニケーションを増やし、一人ひとりがやりがいを実感する NPO になる。

■26 年度の目標
　多様なプロジェクトやチームの活動成果と収支を明確にし、透明性が高く、効率的な財務・管理体制の構築を進める。

2-1. 総務

■活動項目
◆規約やスターターセットを更新する。
◆ファイル管理の仕組みを変更し、経費削減する。
◆会員管理の仕組みを改善する。

2-2. 人事・労務

■活動項目
◆採用計画
経理スタッフ 1 名、事務局スタッフ 1 名増員
◆業務管理の向上
27 年度以降の担当業務の決定プロセスを見直す

2-3. 財務・経理

■活動項目
◆広報戦略・活動にもとづき寄付拡大/収入拡大を実現する。
・神奈川県の企業版・個人版ふるさと納税の拡大活動を行なう。
・既存のプラットフォームを活用し、寄付拡大を目指す。
◆予算と実績の月次管理の向上
・月度単位の収入と支出の計画立案と実績確認を行なう、勘定科目や事業部門コードを入れる。
・事業部門毎の収支の状況を四半期に一度確認する。
・翌月精算の再徹底
◆経理業務の外注化、システム改善とそれに伴うスタッフの入力精度向上
・決算業務の外注化
・スタッフそれぞれが、事業部門、勘定科目、補助科目、費用科目を選択して経費精算する。
◆地域チームにおける会計記録の改善
・地域チームの分担金と源泉徴収の実績を確認し、見直す。

3． 事業戦略

■活動項目
◆フリーミアムモデル（フリーとプレミアム）の設計と実装
・誰もが活動を始められるよう、基本となる考え方やツール（ガイドライン、ワークシート等）を広く開放（コモンズ化）する。
・コモンズだけでは得られない、一歩進んだ学びや体験、繋がりなどを、プレミアム（有料）サービスとして再定義する。

・行動や関わりの転換を定性的に定義し、実際の数として把握しながら、それぞれの転換を促す施策を改善する。
・わくナビ（個人）パートナー制度によって、個人のプログラム商用利用を解禁することで、ビジネスとともにプログラム利用が拡大することを目指す。
・適正な会費や講座料金の見直しを行なう。

◆会員が主役となる組織構造へのシフト
・地域チームに所属していなくても、個人での活動や、テーマや目的に応じたプロジェクトベースの活動ができるサポート体制を検討する。
・Discord などを基盤に、会員同士がコミュニケーションする中で、お互いの活動内容を知り合い、課題解決し、品質を高め合える場を醸成する。

◆探究の土台となる「Step 0 」の第一人者としてのポジショニング
・きらびやかな探究の場がつくられるときに、地味であることから見過ごされがちで、しかし大切な最初のステップ（Step 0 ）である「わくわくエンジン®」発見して活かすプロセスを、教育の中に組み込む第一人者として行政、学校や居場所、起業家教育の運営者などに重要性を伝えて連携する。

（２）その他の事業

1. 寄贈品、グッズなどの物品販売
2. 著作、出版物の制作・販売
3. 会員のサークル活動支援事業

特になし

※「わくわくエンジン」、「すきなものビンゴ＆お仕事マップ」、「will-being」は、特定非営利活動法人キーパーソン 21 の登録商標です。